

## 岩倉市タウンミーティング（岩倉青年会議所）会議録

平成31年2月12日(火)

午後6時～8時10分

生涯学習センター

出席者 岩倉青年会議所 16名

市長、副市長、総務部長、秘書企画課長、企画政策グループ長  
協働推進課長、広報情報グループ長、同グループ担当1名

テーマ「岩倉市と岩倉青年会議所がお互いの理解を深めることで、より良い岩倉市をつくる具体的な活動の方向性の発見」

### 1 あいさつ

岩倉青年会議所代表あいさつ  
市長あいさつ

### 2 事業説明

岩倉青年会議所

- ・これまでの活動、取組
- ・2019年度の岩倉青年会議所事業計画
- ・青年会議所とは

岩倉市（市政運営の5つの柱）

- ・子どもたちの成長を応援するまち～子育て環境の充実～
- ・ずっと住みたいまち～定住の促進～
- ・健やかで生きがいのあるまち～健幸長寿社会の実現～
- ・活気あふれる安全安心なまち～商工農業振興と社会基盤の整備～
- ・未来へつながるまち～確かな行政経営～

### 3 意見交換（要旨）

【J C】 企業誘致について、誘致する業種は絞るのか。

【市長】 この地域は航空宇宙産業の集積地と位置付けられているので、そのような企業もよいのではないかと思っている。しかし、そればかりに固執すると思うような企業に来てもらえないかもしれないので、今のところは、雇用の創出等を総合的に考えて、製造業がよいと考えてい

る。

【J C】 女性の就労等も考慮して、アウトレットのようなサービス業を誘致する考えはないか。

【市長】 賑わいや雇用の創出になり、おもしろい考えではあるが、商業施設は規模的に収まらないので、今のところ、考えていない。

【J C】 岩倉に興味のある企業で働いている方を優先的に保育所に預けることのできる仕組みはできないか。また、一カ所にある程度子どもたちが集まるのなら、そこに送迎ステーションを作ることはできないか。

【市長】 行政は公平性が求められるので、差をつけることは難しい。送迎ステーションについては、需要があれば対応することができるので、活用していきたい。

【副市長】 市内に住んでもらえるならば、可能である。しかし、それをクリアしないとできない。

【J C】 保育所について、他市町村では広域入所も行っているところもあるが、岩倉市ではできないか。

【副市長】 待機児童がいる現在の状況では、入園の枠に余裕がないので難しいので、併せて保育園の定員の拡大を図る必要がある。

【J C】 定員拡大について、私立保育園も協力できるのであれば、広域入所を前向きに検討してもらえるのか。

【副市長】 入園希望は減っていないが、統計上では入園希望者が近い未来に止まる。今後、入園の枠に余裕が出てくるかもしれないので、そのような状況になれば検討していくことも必要かもしれない。

【J C】 企業誘致について、現在進めている場所での企業の誘致数は1つなのか、複数でもよいのか。

【市長】 1つではなく、2つ以上である。場合によって、4つ5つなると思われる。

【J C】 アウトレットモールを入れてしまうと1つで埋まってしまうから、ダメなのか。

【市長】 地域計画の中でも、工業系を誘致すると定めるので、商業系は馴染

まない。アウトレットモールを誘致する場合には、最初からそのような開発が必要になる。

【J C】 現在の企業誘致を進めている場所ではなく、他の場所でアウトレットを作ることはできないか。

【市長】 不可能ではないが、農地転用は非常にハードルが高いため、実現性は低いと考える。

【J C】 周りの友人等に聞くと、岩倉市には住みたいが、「土地がない」などの意見を聞く。調整区域を緩和できるような可能性はないか。その中で、民間で手伝えることができることはないか。

【市長】 消防署の周辺や井上町周辺で、住宅区域を増やす構想は持っているが、需要がないと宅地開発ができない。今後、岩倉市に住みたいという需要が多く出てくれば、そのような要望を県にすることもできるかもしれない。その際には、署名活動等協力していただけるとありがたい。

【J C】 外国人の交流・共生について、市としてどう考えているか。

【市長】 現在、人口の5%程が外国人となっている。15~20年前はブラジル人の方多かったが、現在は、アジア系、中東系の方も多く多国籍化しているのが特徴であり、その中で、言語が1つの壁となっている。生活に関わる全てことを国別で対応することはできないので、翻訳アプリを利用したり、AIを活用したりして課題を1つずつ解決していきたい。ただ、人と人とのコミュニケーションが大切であると考えている。東小学校ではさまざま取り組みが行われていると聞くので、東小学校からの広がりも期待したい。

【副市長】 外国人の交流については、岩倉市国際交流協会が20年以上活動しているので、国際交流協会と協力すると遠回りせずに取り組めると思う。

【J C】 岩倉市にはなぜ外国人が多いのか。

【市長】 市外を含め働く場所が多いことが考えられる。

【J C】 発想の転換として、東小学校をインターナショナルスクールとしてはどうか。

【市長】 各地域の小学校区があるため、なかなか現実的に難しい。学校自体の魅力を高めて、日本人の子どもも増えていくような政策を展開したい。その中で制限はあると思うが、東小学校を起点に国際化・多文化

共生を進めていきたい。

【J C】 現在、市が抱えている一番の課題は何か。

【市長】 少子高齢化で、高齢化については、元気な方が増えることで、地域も活性化するという面もあるので良いと思うが、少子化（支える人が少ない）が問題である。しかし、高齢化についても全国的に、医療や介護を地域でどのようにケアしていくのかなど課題がある。また、教育の問題も大きいと考えている。岩倉市としてどのように教育に取り組んでいくのかを考え、市としてできる学校環境の充実などを先生たちと協力して行いたい。

そして、市の賑わいの観点から昼間の人口を増やすことに力を入れていきたい。そうすれば、雇用が人を呼び、人が雇用を呼ぶといった良い循環ができる。その中で、企業誘致は1つの起爆剤となると考えている。その他にも、環境など課題をあげていけばキリがないが、いろんな課題を地域の困り具合に応じて、取り組んでいくことが大切だと考えている。

【J C】 青年会議所で今後国際交流事業を行っていこうと考えているが、行う上でのアドバイスや、行政でできないことで民間ができることがあれば教えてもらいたい。

【市長】 まずは、岩倉市の外国人の現状を把握してもらいたい。行政は、公平性が求められるため、なかなかできない何かに特化したことを行うとよいかもしれない。

【総務部長】 国際交流協会に相談するとよい。国際交流協会は、行政では知りえない生活の視点を持っているので、話の中でヒントを得られるかもしれない。東小学校で国際交流協会と学校が協力し「東小学校夢クラブ」という学習支援や生活相談を行っている。そういうものも参考にされると良い。または、市も相談したことがあるが、派遣の業者にも話を聞くとよいと考える。生活の話や行政手続きの話などが聞けるため、違う部分が見え、話を進めやすくなる。

【J C】 駅前にぎわい広場について、具体的な場所はあるのか。

【市長】 ある程度の面積が必要であり、現在は、駅から旧道までを候補としている。お祭り広場くらいの面積があるとよいため、道路を上手く利用できないかと考えている。今後、地域の方とも協議が必要になり、まだ夢物語であるため、具体的な形は見えない。駅の近くで岩倉市の

シンボルが活かせる場所を作り、イベントなど開催し、賑わいを創出し、市外から人を呼びたい。

【J C】 今後、桜通線や生田通りを開発していく中で、大須や吉祥寺のアーケード街のように商店に限定したまちづくりを進めることはできないのか。また、歩行者天国のようなことはできないか。

【市長】 今の時代、大型店舗ができたりと、商業形態が変わってきており、商店街をこれから形成していくのは厳しい。また、行政が主体で行うことも難しい。

【J C】 生田神社を恋愛の神様にしてはどうかと考えたことがある。JC と行政が協力して、神社を有名にすれば、人も増える。協力して行えば、いろんなことができると思う。

【市長】 行政は頭が固いので、アイデアが生まれづらい。民間の方がよいアイデアを思いつくので、よいアイデアがあればぜひお願いしたい。

【J C】 昼間の人口増加、財政力指数 UP に向けて、企業誘致以外の施策はあるか。

【市長】 犬山市では観光に力を入れ、賑わいができているので、岩倉市も観光を強化して、特色あるものをアピールしていきたい。また、財政力を増やすといった面では、人を増やし、税収を増やすことが大事である。高所得者を呼び込めるような施策も一つではあるが、岩倉市では1人の収入で土地・家を購入することは経済的に難しいので、共働き世帯が子育てしやすい環境を提供していくことが大切である。

【J C】 空き家バンクについて、登録が少ない理由は把握しているか。また、今後の策はあるか。

【市長】 少ないどころか0である。空き家を所有している人に相談するが、登録していただけていない。まとまった需要があれば施策も考えるが、そういった需要もないため、施策に踏み切れない。市のプロジェクトの中でも検討しているが、空き家があってもすぐに次に住む人が見つかるなどなかなかバンクに登録までいかないのが現状である。いいアイデアがあれば教えていただきたい。

【J C】 空き家には、大きく分けて、老朽化等で使えないものとまだ使える

ものがあると思うが、老朽化等が激しい空き家については、修繕費が高いために費用対効果で損をするおそれがあったり、相続により所有が複数名義になり、放置されたものであったりと弊害要因はたくさんあるように感じる。

【市長】 市としても、対策を講じるためにもう一步アイデアがほしいと考えている。

【J C】 空き家バンクに登録するメリットはあるか。

【市長】 情報を提供するのみである。

【J C】 現状、空き家があつて、市ではなんとかしたいと考えているのか。

【市長】 放っておくと危険な特定空き家は改修済みなもので、市外から来て、空き家に暮らすということにつなげたい。

【J C】 まちづくりをするうえでは優先度があると思う。1番大事だと思っていることを前の5人の方に聞きたい。

【市長】 昼間の人口を増やすことである。

【副市長】 公共施設の再配置計画の問題。特に保育園の再配置の課題である。市全体で考えて取り組んでいきたい。

【総務部長】 人と人とのつながりを醸成することである。

【秘書企画課長】 空き家対策により、新しく住める場所を増やしたい。

【秘書企画課企画政策G長】 第5次総合計画を策定していくなかで、10年後を考え2点ある。1つは岩倉団地の今後とAIを活用した取り組み。

【J C】 青年会議所のような団体に求めることはあるか。

【市長】 市にはたくさん部署はあるが、基本的な考え方は一つであるので、タウンミーティングなどで話をする中で気づくことがある。それを踏まえて、行政ではできないことが民間ならできることも多くあるので、それを補いながら協働して事業を推進したい。

#### 4 あいさつ

副市長あいさつ

岩倉青年会議所代表あいさつ

午後8時10分終了